



市辺地区まちづくり協議会広報誌

いちのべ

万葉のまち 市辺

第58号

令和4年1月



光りで結ぶ市辺の絆「イチナリエ」



発行：市辺地区まちづくり協議会 / 東近江市市辺町2391
市辺コミュニティセンター内 TEL&FAX 050-5802-3392

Facebook



ホームページ



ごあいさつ

平素は、まちづくり協議会の活動に対しましてご支援ご協力をいただき心からお礼申し上げます。

さて、ワクチン接種などの効果もあり、昨秋には非常事態宣言が解除され、少しずつ日常生活に戻りつつありますが、新たな変異株が確認され、まだまだ緊張した日々を送る状況にあります。

このような状況の中ですが、まち協杯グラウンドゴルフ大会をはじめ概ね計画した事業は実施することができました。中でも、防災意識の向上を目指してこれまで取り組んできました「減災プロジェクト」の活動を総括し、昨年7月に「市辺地区減災連絡会議」を設置しました。今後、市関係課と連携し「だれ一人取り残さない防災の実現を目指して」個別避難計画作成に向けて皆さんとともに取り組んでまいります。

皆様にとりまして、良い一年でありますようお願い申し上げます。

市辺地区まちづくり協議会
会長 須田 智廣



新年のご挨拶

新年おめでとうございます。コミセンの前庭にはイルミネーションが灯り、“市福”と呼ばれるふくろうにはハートを形どった電飾で寅年を迎えました。ネットで“市福”と検索すると、このオブジェがヒットします。昨年発足の会議体「市福みらい会議」にも同じ“市福”がついていますが、ここでは市辺地域の福祉を考える会議体として命名され、その読み方は「いっぷく」と読みます。地域住民の方なら誰でも参加でき、また一服してもらえる会議体を目指しているものです。

昨年から行政との太いパイプが繋がりました。アフターコロナを見据えた事業の在り方や、まちづくりの活動拠点や防災機能を有した新コミュニティセンターを身近な事として考え、取り組む年だと位置づけ進めてまいります。

ご支援ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

市辺コミュニティセンター
館長 木田 行男



市辺地区を明るく照らすイルミネーション

「イチナリエ」の点灯

「光りで結ぶ市辺の絆」をテーマに、11月27日より市辺コミュニティセンターの前庭をイルミネーションで飾った「イチナリエ」が点灯されました。(本誌表紙写真)

昨年はコロナの影響で、市辺地区の諸行事が次々と中止となったことで、何か地域を明るくすることが出来ないだろうかとの思いがありました。そこで、阪神大震災で被害を受けた人々を、励ますためとして生まれた、きれいな明かりの「神戸ルミナリエ」にあやかって、地域を応援する新たな催しとして「イチナリエ」と銘打ったイルミネーションが生まれました。



飾り付け作業をする学生さん

昨年の締めくくりである12月から、道行く人や車を明るく照らし、今年の新年を飾るシンボルとしても美しい姿を見せてくれました。自治会連合会の後援や、地元大学の学生さんの協力も得て、会場に約6千球のLEDが輝きました。この点灯は1月末日まで毎日17時から21時まで行われています。

市福みらい会議

レポートNo.2

昨年度より本格的に活動を開始しました「市福みらい会議」では「誰もが安心して暮らせる地域福祉のまちづくり」を目指し、話し合いを重ねております。

昨年度は「健康」について「いつまでも元気に生活するための場づくり、機会づくり」の事例収集と発信に向けて取り組んでいます。

「市福みらい会議」では個人、家族、好き寄り、

サークル活動、地域活動など、市辺地区で日々の暮らしのなかにある、「出会いの場」（つどいの場、つながりの機会）を見つめ直し、発見して、健康長寿（フレイル※にならないため）への手掛りを見つけ出したいと考えています。

これらの「出会いの場」で活動されておられる歴史のあるサークルや新規に立ち上げたサークルを優先して取材中ですので対象サークルの皆様にはご協力をお願い致します。

※フレイル (Frailty 虚弱)

健康な状態と要介護状態の中間に位置し、身体的機能や認知機能の低下が見られる状態



信号機ができました！

11月17日、三津屋バイパスの八日市西小学校最寄り交差点に信号機が設置され、その点灯式が行われました。

この信号機は、学校関係者をはじめ市辺地区自治会連合会などから強い要望が出されていたもので、関係各位の尽力もあり設置されました。

信号機は定周期式で、ボタンを押す必要もなく子どもたちも安心して渡れることができると喜ばれています。当日は、議員さんや学校関係者、見守り隊が信号機の稼働開始にあわせて集まり「初渡り」をする小学生を見守りました。



減災カルタの出前授業

昨年12月20日、布引小学校6年生の理科の授業にお邪魔して、減災カルタを使って楽しいひと時を過ごすことができました。

子ども達は、普通とは異なるカルタに戸惑いを感じながらも積極的にカルタ取りに挑戦してくれたと思います。



読み札を聞き、その意味を表す文字なし絵札を探すという前代未聞のカルタ取りでしたが、さすが6年生、すぐに慣れて密に気をつけながらもワイワイ騒ぎながら絵札に手を伸ばし、なかには同時ジャンケンをしながら楽しんでいました。

私達がカルタを作った目的は、子ども達から家庭へ、家庭から地域へ、減災意識を上げた点にあり、その実現に向けての第一歩が始まった一日でした。

今後も「備えておいて良かったね」といえる地域づくりに努力していきたいと思いますので、ご理解とご協力をお願いします。

減災連絡会議 座長 榎木 貞夫

第8回 蒲生野 万葉短歌会表彰式

広報紙57号(令和3年10月号)で第8回蒲生野短歌会の入賞作品の紹介を致しましたが、去年は万葉フェスタの開催ができず表彰式もできませんでした。

昨年10月24日に選者の皆さんを迎えて表彰式が行われました。なお、出席されなかった一般の部ならびに小・中学生入賞者には後日届けられました。



歴史・文化部

飯道山ハイキングに参加して

藤本 長蔵

11月14日初冬の晴天に恵まれ最高の一日でした。私は、こういったイベントに参加すると「三つくり」効果があると常々思っていますが、今回もそのとおりでした。

①友づくり：私は南部地区ですが、知人の情報により厚顔にも参加させていただきました。市辺地区にも友人がいるので久しぶりに楽しい語らいをさせていただきました。

②知識づくり：紫香楽宮、飯道山について、わかり易い資料を用意していただき、それに基づいて現地研修することができました。

③体力づくり：今回はハイキングということでしたが、飯道山への道程、修場巡りは登山に等しく、まさに「しんどかった」の一言でした。平素からのウォーキングなど体力づくりの必要性を痛感しました。本当にありがとうございました。



部会だより

広報56号でお知らせしました勸請縄は、1月中旬にビデオ撮影を行いました。関係する5町の皆様のご協力ありがとうございました。

今年度第2回目の「市辺れきし発見塾」は、2月6日(日)午後1時30分～3時市辺コミセンホールで開催します。八日市に飛行場があったことを思い起こしていただくため、演題は「陸軍八日市飛行場 開隊式から戦後まで」です。多数の参加をお待ちしています。

歴史・文化部 苗村 久男

文化祭 作品紹介
出展者数 586人
出展作品数 961点
ありがとうございました

部会だより

子ども健全育成部

子ども健全育成部では、11月市辺地区文化祭で屋外ブースを出展し、秋晴れの下「おうちで縁日セット」の配布をおこないました。

展示を見終えて外に出てきた子どもたちは、たくさんの水ヨーヨーや詰め合わせ袋から自分の好きなものを喜んで選んでいました。



新型コロナウイルス感染症対策のため、会場でのスーパーボールすくいや射的はできませんでしたが、家に持ち帰って家族で楽しんでもらえたことと思います。

子ども健全育成部 森 耀一

安全・安心部

2年続けて万葉フェスタが中止となり、残念ながら、バザー等の実施ができませんでした。新型コロナの状況が改善され、今年は開催ができることを期待しています。

『市辺地区減災連絡会議』をキックオフすることができ、安全安心部も参加させていただきました。また、毎月初めに防災無線を介して減災関連の啓発放送を行っています。不意を突いて発生する地震等の災害に日頃より備えていくことは、なかなか難しいことですが、こうした活動が皆様の防災・減災意識の向上の一助に少しでもつながればありがたいことです。

最後になりますが、『減災関連書籍』の貸し出しを市辺コミセンにて実施していますので、ご利用ください。

安心・安全部 柴田 俊幸

地域活力部

昨年の4月8日に、「万葉の森 船岡山」で、一昨年植栽した場所からムラサキの芽を3株発見しました。ムラサキは、多年草なので当然ですが、初めての事なので、感動しました。残念ながら夏頃には周囲の木の枝が生い茂り、いつの間にか消えてしまいました。

昨年6月5日には、万葉の森の別の処に地域活力部の会員8名のご協力を頂き、ムラサキ苗15本を植栽しました。台風がなく、10月まで順調に育ち開花しましたが、秋の気温が高く、種は皆無でした。

また、6月7日から6月11日に市辺コミセン前でムラサキの苗を配布しました。一昨年より低調でしたが、希望者には全員お渡ししました。

今年度の植栽地は、既に準備済です。あとはムラサキの苗が期待通り出来るかどうかです。

地域活力部 森島 安夫

健康・福祉部

今年度の事業もあと3ヵ月弱、昨年はコロナ禍に振り回された年になってしまいました。少しは落ち着いたと思っていたら、11月末になって、コロナの変異株「オミクロン」が私たちの周りに発生しており気を付けたいところです。

10月9日、健康グラウンド・ゴルフ大会は、みなさんの御協力で無事終了することができありがとうございました。

12月1日、午後1時より午後3時まで市辺コミセン主催の第2回ご長寿ふれあいサロン（80歳以上対象）が32名の参加で開催され昨年同様、健康・福祉部も共催させていただきました。

木田館長の開会挨拶の後、早速アトラクションに入り、落語で「春寒亭遊若師」（しゅんかんていゆわかし）師匠が面白、おかしくみんなを笑わせてくれました。また、健康体操の先生に教えていただいた「スクワット体操」を毎日行って記録をつけて富士山に登る気分で継続して下さいとのこと「継続は力なり」ですかね！！お後がよろしいようで、お開きとなりました。

健康・福祉部 今井 肇

自然・環境部

自然環境部の活動の原点はコンポストです。水分の多い生ごみを堆肥化することにより、可燃ゴミの重量も減り、焼却のために使う油も不要になりCO2の削減も図れます。

コンポストを維持するのは、もみ殻、米糠、廃食油です。農業地域の市辺では、無料で手に入るものばかりです。良いことづくめのコンポストをもっと広く地域の方達に知ってもらおうと始めたのが「まちづくり農園」でした。

ところが気候の変動は、我々の取り組みを上まわり、極端な日照りと、局地的豪雨、まちづくり農園の作物も水不足で散々でした。

このような現象が地球温暖化によりもたらされている以上、この気候を正常化するためにもCO2削減の取り組みは必須です。

「これから」を生きる「子ども」や、「若い人達」こそが関心を持ち、是非この取り組みに積極的に参加して欲しいと願っています。

自然・環境部 小西 恵美子

編集後記

二回目のワクチン接種率の高まりと共にコロナ感染者数も減少し、平穏な年越しが出来ると思っておりました。

しかし、現実にはオミクロン株の発生の影響なのか感染者数は増加傾向となり、再び油断出来ない状態へと入りつつあります。

ワクチンのブースター接種や経口薬の充実などにより、早くコロナが終息してくれる事を願っております。(K・S)